

国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

会長 古田 和彦
副会長 秋元 美晴
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古賀 健一郎

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

“Be the light for change”

「変革のための光となろう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 立花 明美

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Instil Confidence in our Youth”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

「初心に帰り、新たな船出を踏み出そう」

副題：「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCA と地域に仕えよう」

<今月の聖句>

古田 和彦

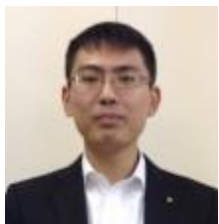
主よ、あなたは代々にわたしたちの宿るところ。
山々が生まれる前から
大地が、人の世が、生み出される前から
世々としえに、あなたは神。

(詩編 90:1)

今月のひとこと

『真夏の昼の行事開催を再考すべし』

齋藤 宙也



ようやく、猛暑日やそれに近い暑さの連続は収まってきている。しかし、今なお真夏日やそれに準ずる暑さは継続している。いかんせん、台風が来ない限り猛暑日又はそれに準ずる晴天(せいせい、多少雲が出てくる)で、

夕立すらなしという日がほとんどであった。私の方は、昼間は原則として自宅にこもり、事務所には、日が陰る5時過ぎ(8月後半からは、4時半頃)から行って作業をするということで、なるべく余計なことをせず静かに過ごした。その結果、まだ完治はしていないもののどうにか夏を乗り切った。昨年は出られなかった8月の同盟理事会も、参加できた。

この理事会の監事講評で、私は、Yのキャンプ等の行事も、高山でやるものを除き、真夏の昼間を避け時間帯だけでも見直すべきであると主張した。

ここまで延々と危険な暑さが続けば、屋外のどのようなイベントであっても、熱中症のリスクは避けられない。根性論は論外として、ある程度対策をしても、それなりのリスクは残る(夏の甲子園のクーリングタイムも、休憩直後にかえって症状が出る選手もいたようである)。こうなると、いずれ、真夏の昼間にイベントを決行すること自体が、安全配慮義務違反に問われる日が来るのではないかと考えている。

公式な見解だけでも、熱中症警戒アラートというのがあるし、学校でも、暑さ指数が一定以上になったら屋外の運動を原則中止すべきであるとされるようになった。類型的にも、子供の方が暑さの影響を受けやすいとされている。ちなみに、公園の金属製の遊具も熱せられて危なくなっているし、物干竿すら熱く感じる。

夏の高校野球が甲子園で続けられる限りは、裁判所も付度して許容するかもしれないが、そうであっても、ひとたび事故が報じられれば、そのダメージは決して小さくない。概し

<2023年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 6名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 6名	58 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<10月の行事予定>

ASF

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	第一例会	中央Y
14	土	10:00	第26回チャリティーラン	臨海公園
26	木	17:00	第二例会	Zoom

て、夏は、通常国会も終わっており、ニュースになる内容が少ない。そのため、広く報じられる可能性も上がる。ニュース映像の中で一瞬でもYのロゴでも出てしまえば、その影響は全国のYに波及するおそれがある。大げさかもしれないが、100年続いてきたYの精神的支柱がぐらつく話にもなりかねないのである。

現場で企画している側からすれば受け入れ難いところはあるかもしれないが、100年前の夏と現在の夏は、同じではない。100年前とキャンプの価値は同じであるが、暑さまで同じ感覚で臨むことは許されない。ディズニーランドのパレードか何かも、余りの暑さで中止になったとか、相馬の馬追いも、今後は実施時期を変更するという。地元の少年サッカー大会も、かつて8月に行っていた閉会式を9月頭までずらすようになった。

私としては、法的リスク、レピュテーション(信用・評判)リスクを指摘するという、監事の職責そのものを発言したということである。もちろん、各Yもこの問題に無自覚であるとは思っていないが、来年以降も熱中症の事故ゼロになるようしっかりと検討していただきたい。

『第10回横浜YMCAの専門学校 日本語スピーチコンテスト報告』

古賀 健一郎

9月1日(金)10時より、第10回横浜YMCA 専門学校日本語スピーチコンテストが開催された。会場は横浜中央YMCA9階チャペル。会場からのオンライン配信で実施。一部顧客を入れ、出場者、審査員及び関係者スタッフが会場で参加した。



古田和彦横浜クラブ会長 挨拶

横浜YMCA 学院専門学校日本語学科の古田島聡美さんの司会のもと、まず挨拶に立った古田和彦横浜クラブ会長は

「言葉を学ぶこと」は、「その国の文化を学ぶこと」だと考える。日本語を学んでいる期間に、その言葉の裏にある日本文化を感じとっていただきたい。

さらに、日本の良さや改善点についての問題意識までもつようになれば、日本語を学ぶ意義もさらに深まっていくだろう。まずは、皆様、それぞれの希望ある目標を果たせるよう、日本語を学ぶことに励んでほしい。そしてこのスピーチコンテストが、そのような皆様の希望を叶えるステップとなれば...と願っている。今日の皆様のスピーチを期待したい。」と述べた。

横浜YMCA 佐竹博総主事 挨拶

次に横浜YMCA 佐竹博総主事が「横浜YMCAの専門学校は『私たちの使命』に従って、以下の5つの要素を活動に取り入れ実践している：①多文化共生②ボランティア③生命の大切さ④差別やいじめのない⑤平和と国際交流。今回は学習成果の発表なので点数・順位がつくが、結果によってどこが良かったか、何に差がついたのか、新たな目標に出会うべきだと思う。新たな環境の横浜の地に来て、日本語を学び、進学や就職の志をもって日頃の生活や学校での学びから感じられることなどを題材に、皆様の考えていること、生活のことなど聴くのが楽しみだ。

このような青年たちの発表の機会を設けていただき、審査などのご協力をいただくワイズメンズの方々、また、審査、協賛、協力...等、多くの企業、団体、個人の皆様のご支援を賜り、このような会が実現できたことに心より感謝したい」と挨拶した。

審査員5名の紹介

続いて、審査員5名の紹介。恵泉女学園大学の秋元美晴名誉教授(審査委員長)、厚木クラブの佐藤節子会長、神奈川県青年国際交流機構の林恵子副会長、YCJサポーターの笹岡憲史さん、横浜クラブの齋藤由也さんの5名である。出場者は、横浜YMCA 学院専門学校と厚木YMCA 健康福祉専門学校日本語科による、6つの国(バングラデッシュ、中国、ミャンマー、ベナン、ベトナム、ニカラグア)の8名の留学生の方々だった。

《8名の留学生の日本語スピーチから.....》

最優秀賞はWINT WADI HILAINGさん「ネジ」と題して。

最優秀賞はミャンマーからの留学生、WINT WADI HILAINGさんで「ネジ」と題して語った。「中学生の夏休み、家族で母の実家の小さな村へ軽トラックで向かっていたが、突然車が止まった。道の周りには象などの生動物が出没するような危険な場所での立ち往生。エンジンや大きな車の部位には問題なかったが、1つの車輪の小さなネジが5つ必要な所で2つしかないのが原因だった。小さなネジでもどんなに役にたっているか.....。最終的に他の車輪の小さなネジから都合つけて何とか車は動き、小さなネジのお陰で危険な森から脱出できた。

父の次の言葉は今でも心に響き自分の人生に影響を与えている。『小さなネジは大きなものではないけど、合わせると力になる.....』“力はそんなにもついで



なくても、自分が出来るだけ努力すれば、他の誰かの役に立てるようになる”ことを父の言葉から理解できた。

大学で日本語を学び日本への留学の道を選んだ。日本の大学で国際関係について学び自分の国で教師として働きたい。若い人の為に留学のチャンスが出来るだけ与えられるようにしたい…。そして私も、あの小さなネジのように、一人の教師として、自分の国がいつか世界の舞台上で走れるように、精一杯貢献したいと思う。」

《横浜 YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト動画配信》

他の発表者のスピーチ内容は、ぜひ下記を検索してご視聴いただきたい。

[横浜 YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト](#)

《閉会式》

審査委員長 講評 恵泉女学園大学 秋元名誉教授

恵泉女学園大学の秋元名誉教授は、閉会式で「皆様、今日はそれぞれのテーマで一生懸命に頑張ってスピーチなさいました。こういう素晴らしい機会に、皆様のいろいろなお話を聴かせていただき、大変楽しかったし勉強になりました。前日から事前に皆様それぞれのテーマを拝見しながら、どういう内容を話されるのだろうか？と考えておりました。特に「ネジ」について、今日のスピーチで理解できました。今回の皆様の点数はほとんど差がなく、全員素晴らしい出来でした。皆様の今回の日本語スピーチの経験が次への良きステップになればと願っています。」と講評された。

佐藤節子厚木クラブ会長 挨拶

最後に、佐藤節子厚木クラブ会長は、「以前の私は人前で話すのが苦手だったが、今はそれを克服できた。これまで心に留めてきた『過去は感謝、現在は勇気、未来は希望』の言葉を皆様の新たな出発に向けて贈りたい。」との閉会の辞をもって、11 半時に会を閉じた。

この日本語スピーチコンテストは、2013 年度から始まり、コロナの影響を受けながらも、10 回目を迎えることができた。

留学生の皆様が日頃考えていることや、夢、文化の違い、母国の話、家族のこと...等のテーマで日本語を使ってしっかり語ったを。それぞれの留学目的達成の為、日本語の学びに真剣に取り組んでいる姿には感銘を覚える。また異国での暮らしでの戸惑いや不安の姿も伝わってきた。より積極的に国籍や民族などの異なる人々との交流を通して、出来るだけの手助けをしながら、『共に生きていく平和な地域社会』を目指したいものだ。



留学生とワイズ(横浜・厚木)と一緒に

(交流会) 12:45~13:45

午前中に、留学生の皆様が一生懸命に日本語を使ってスピーチをされたことは、私たちに深い感銘を与えました。それぞれの方が伝えた貴重なメッセージは、私たちの心に強く響きました。スピーチの準備と発表への努力に対し、敬意を表します。その後、私たちは皆でリラックスし、楽しい交流の時間を過ごしました。

横浜クラブの参加者は、秋元、大高、古賀、佐竹、立花、古田 6名。

「第 99 回 YMCA-Ys 協議会報告」

古田 和彦

9月5日(火) 19:00~20:00、第99回Y-Ys協議会が久しぶりにリアルを入れて、Zoom 併用で開催されました。会場は横浜中央 YMCA608 教室で、参加者は21名でした。今回は、鎌倉クラブが担当しました。開会礼拝では三上淳担当主事が、マタイによる福音書14章1-12節を朗読、祈禱をささげました。次いで、同クラブの千葉裕子会長が司会・進行しました。

先ず、佐竹横浜 YMCA 総主事と黒川湘南・沖繩部長から挨拶がありました。

協議事項はなく、報告に入りました。横浜 YMCA から次の7項目の報告がありました。①ユースボランティアリーダーズフォーラムが9/29-10/1開かれる。横浜 YMCA からは10名のリーダーが参加予定。②第26回横浜 YMCA インターナショナルチャリティーランが10/14リアルで開かれる。参加費支援、Tシャツ購入、当日のボランティア依頼がありました。③YMCA フェスタが9/23開催される。④ワイズメネットの絵本贈呈事業で絵本の贈呈を受けた。⑤第30回 AIDS 文化フォーラムが8/4-6開催された。⑥日本語スピーチコンテストが9/1開催された。⑦横浜 YMCA 委員研修会が行われた。

ワイズメンズクラブからは、各クラブの報告が行われました。当クラブは、8/24納涼例会に大勢参加いただいた感謝と、10/12例会に、卓話者として、山田公平東日本区理事を迎えていることを報告しました。

次回100回は2023年12月5日(火) 19:00~20:30 会場は未定、担当は横浜とつかワイズメンズクラブで開催することとし、散会しました。

横浜クラブの参加者：佐竹、立花、古田の各ワイズ

「横浜 YMCA フェスタ報告」

古田 和彦

日時：9月23日(土・休) 10:00~14:30
開催方法：湘南とつかYMCAでのリアル開催
出席者：横浜クラブ：古賀、佐竹、古田
全体：<会場>約100名

9月23日(土・休)、昨年度に続き第2回目となる「横浜 YMCA フェスター私たち会員の集いー」が、湘南とつかYMCAを会場として開かれました。これは、会員事業委員会を中心に企画されたもので、委員長は当クラブ古賀ワイズです。コロナ感染前は、会員スポーツ大会としてこの時期に行われていたのですが、コロナが収まった昨年からはプログラムを一新して「横浜 YMCA フェスタ」となりました。

その内容を次のように順を追ってご報告します。

<開会礼拝>

読まれた聖書は、2023年度横浜YMCA基本聖句、「今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。」(コリントⅡ8:11)です。同委員の鈴木茂さん(つづきワイズ)がお祈り、奏楽は、YMCAオペリン保育園の安倍友子さんでした。

礼拝の後に、佐竹博総主事から挨拶がありました。

<プログラム①>10:20-10:50

「知りたい!あなたの知らないウエルネス」山手台センター 宮沢さん

ウエルネスは単に肉体的健康(ヘルス)を意味するものではなく、身体、感情、精神、知性、職業、社会、環境の各面において自己実現を図ることを目指すことと語られました。終わりにいすに腰掛けての体操を指導されました。

<プログラム②>10:50-11:15

「繋がりたい!世界の友だち」国際・地域担当 柳原さん
世界には196の国と地域があること、そのうち、120の国・地域にYMCAがあること、横浜YMCAはその中で世界とのつながりを大切にしていること、具体的には、「ミャンマーボランティアの旅」、「ボランティア イン タイ」、「カンボジアYMCAスタディツアー」などの活動を行っているとの紹介がありました。

<プログラム③>11:15-13:00

YMCAの各事業やワイズメンズクラブなどが、それぞれ分かれて働きを紹介しました。私たちワイズは、203教室で、絵本の読み聞かせを行いました。当クラブ古賀ワイズ、鎌倉クラブの千葉、板崎、藤井ワイズが行いました。部屋中満席で3冊の絵本読み聞かせと導入歌、折り紙を行い、また、ワイズのパンフレットを来場の方々にお渡ししました。また、この時間にアンジュのパンなどで昼食をとりました。

<うたごえ広場>13:00-13:20

横浜つるみクラブ久保ワイズの指導で、懐かしい歌を共に歌いました。

<ビンゴ大会>13:20-14:15

各プログラムに参加するとビンゴのカードにスタンプがもらえました。それを基にビンゴ、富士山YMCA宿泊券が一等の商品でした。私は全く当たりませんでした。

<閉会礼拝>14:15-14:30

会員事業委員会委員長の古賀ワイズから挨拶、続いて全員で、「横浜YMCA—私たちの使命—」を交読して閉会しました。

「近況」

秋元 美晴



9月23日、24日の2日間、多摩市国際交流センターの創立30周年記念式典とイベントが行われました。当初11月の予定が急遽2か月前倒しになったため、慌ただしい日々を送ることになりました。

私は横浜市民ですが、定年退職した大学が多摩市にあった

縁で、2021年度から理事長を務めています。しかし、多摩市のことはほとんど知りませんでした。ましてや多摩市国際交流センターのことは、何度かボランティアの日本語の先生たちの前で話したり、ボランティア日本語教員養成の研修会を企画したりするくらいで、よく知りませんでした。

30周年記念の実行委員会で役割を決めるとき、展示場(ギャラリー)を担当したいと申しました。展示場の係は大変ですよと事務局に言われたのですが、多摩市国際交流センターは1993年からこれまでの30年間何をどのように進めてきたのかわかるよいチャンスだと思ったのです。それで、4名の人たちと一緒にゼロから話し合っ、進めていきました。4名とも定年退職した者ばかりです。途中で一人、入院することになり、3名とその人の分まで頑張ることにしました。

何度か話し合いました。3つの壁面を有効に使うためにいろいろ考えました。この壁面には30年間の歴史(これも羅列するのではなく、5年ごとに大きな出来事を縦に書き、それに伴う出来事は横に書き、その時の思い出を「つづやき」として、吹き出しにする)を、もう一つの壁面には学習者の国旗を、また3つ目の壁面には多摩市の友好国であるアイスランドの写真を、同じ壁面の半分には<日立の宣伝>のような大きな木を描き、ここに多摩市国際交流センターが大切にしている3つのことを書いた紙をはり、その成果を果実として写真を飾ろうなど、夢は広がり、いろいろアイデアがでました。それをアイデアに終わらせず、実行していきました。

DIYの大きな店に発砲スチロールの板を10枚買いに行ったこともあります。その大きな板にペンキで木の幹と大きな枝を書き、小さな枝と葉っぱはお風呂のタイルに貼るものがあるということで、その展示場班の一人が持ってきてくれました。出来上がったものをそれぞれの壁面に飾るのも大変でした。この時は大勢の方に手伝っていただきました。とにかく展示場班の3人はあまり背が高くないので、「求む、175センチ以上!」で、男性の会員に助けていただきました。展示場の中央にパネルを2枚置いて、その前に机を置いて、30年間の会誌や、日本語学習者が作ったかるたや文集などを並べました。

私は、腰は痛くなるは、めまいはするはでしたが、私だけでなく他の2人の方もきっとあちこち具合が悪くても黙っているのだろうと思い、3人で肅々と働きました。入院した方も心配なのでしょう。メールで、大丈夫?木の葉を貼るのを手伝いたい!など、いろいろエールを送ってくれました。

設営の前日まで頑張り、完成しました。お陰様で大好評でした(I hope so!)

第二例会報告

秋元 美晴

日時:2023年9月28日(木)17:00~18:00

場所:Zoomによる開催

出席者:秋元、伊藤、大高、古賀、立花、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

資料により11月までの予定が示され、了承した。12月も一部予定が示され、了承した。

2. 協議・報告事項

(1) 10月例会

日時：10月12日(木) 18:30～

卓話：「理事として思うこと」山田公平理事

(2) チャリティーランのボランティア

古賀、古田ワイズが参加する。なお、横浜クラブは1チーム(留学生チーム)分、5万円を支援する。

(3) 11月例会

日時：11月9日(木) 18:30～ *リーダーの都合によっては時間変更

内容：YVLF参加リーダー(2名を予定)の報告

*終了後懇親、謝礼は無し

(4) 12月例会

下記の2案がしめされたが、案1となり、立花さんに相談することとなった。

案1：横浜中央YMCA各部門を訪問(時間は相手に合わせる)

案2：横浜YMCAクリスマスを例会とする

(5) ブリテン10月号編集計画の確認

了承された。

(6) 勧誘名刺の件

名刺作成をどう進めるか検討し、立花、池田、古田、大高、秋元で考えることになった。

(7) 横浜中央YMCA ウェルカムフェスタへの対応

11月23日(木) 10:00～14:00、15:00 撤収

場所：横浜中央YMCA

内容：通常+日本語学科で水餃子をつくるなども案あり。

担当：献品担当なので、11月22日14:00～17:00 献品整理と値付け、11月23日バザー会場での販売

(8) 熱海クラブ60周年記念例会への対応

11/26(日) 13:30～熱海後楽園ホテル

横浜クラブから1名、古田会長が出席

登録費15,000円、お祝い金10,000円、交通費全額を支給する。なお、規則には交通費は半額支給になっているが、今後のことを考えて、全額支給とする。これに伴い、規約を改正する。

(9) その他

横浜クラブは、90周年記念行事はコロナ禍のため中止。しかし、90周年記念誌を発行。HPで閲覧可能。

立花さんからのお願い：国際情報ビジネス科専門課程の留学生が会社での実習先・インターシップ先を探している。期間は長くて2週間。ホテルコースは見つけやすいが、ビジネスコースの実習先は足りないのが現状なので、協力の依頼あり。

・9月1日(金)～3日(日) 日台合同留学説明会 @台湾

・9月3日(日) 【貸教室】中央高等学院

・9月7日(木)～8日(金) YGKお泊り保育

・9月9日(土) AM:ウクライナカフェ PM:専門学校オープンキャンパス

・9月14日(木) 日本語学科前期卒業・修了式 *14日～10月10日秋休み

・9月16日(土) YGK オンラインオープンハウス

・9月28日(木) 田園江田幼稚園保護者会

・9月30日(土) PM:専門学校オープンキャンパス

残暑が厳しいですが、皆さん体調には気を付けましょう。新しくYMCAに通う方が多く通う時期でもあります。YMCA活動を通して、部門や国境を超えているんな輪が広がることを願い、新しい会員を受け入れていきたいと思えます。来月10月は9日に横浜YMCAスタッフ研修(YMCA記念日)で聖光学院にて全職員の研修が予定されています。

10月例会プログラム

日時：10月12日(木) 18:30～20:30

場所：中央Y

司会 齋藤 宙也

1. 開会点鐘および挨拶..... 古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条..... 全員
3. 今月の聖句..... 古田ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介..... 古田会長
5. 卓話 「理事として思うこと」
東日本区理事 山田 公平氏
6. ビジネス・報告..... 古田会長
7. *Happy Birthday* 遠藤 喜七
8. 閉会点鐘..... 古田会長

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
9	木	18:30	横浜クラブ第第一例会	中央Y
23	木	10:00	中央Y ウェルカムフェスタ	中央Y
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
25	土	14:00	湘南・沖縄部 部大会	とつかY
25	土	16:00	部第2回評議会	とつかY
26	日	13:30	熱海クラブ60周年記念例会	熱海後楽園ホテル



担当主事 立花 明美

少しずつ後期の行事が入り、横浜中央YMCA内の各事業では、慌しくなってきました。駆除などを行いました。専門学校日本語学科は来月に入国する学生対応が始まりました。

- ・9月1日(金) 常盤町清掃活動
- ・9月1日(金) 横浜YMCA日本語スピーチコンテスト

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA立花 明美にご連絡下さい。

メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080